

クオリティインディケーター（QI）成果報告

【放射線技術部】

指標名

・一般撮影における再撮影率（月別）（再撮影件数／総撮影件数、部位別評価）

目標：ゴール

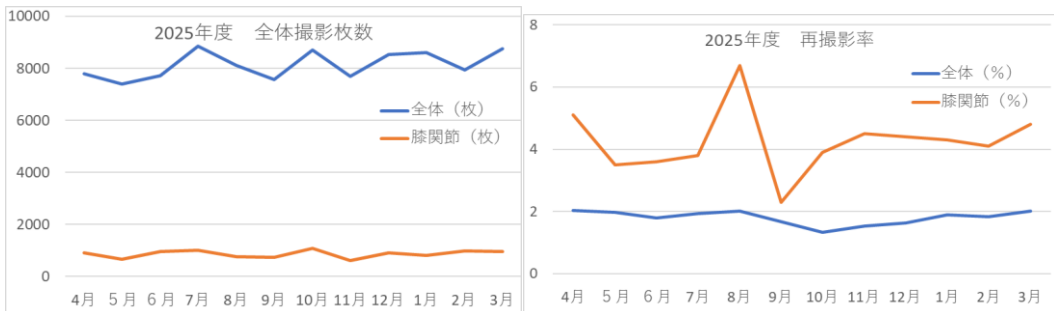
・一般撮影の再撮影率を2%未満で安定的に維持するとともに、最も再撮影率の高い膝関節を重点改善部位と位置づけ、再撮影率5%未満を目標として、画像品質の向上および被ばく低減を図る。

目標：ゴール達成による効果

- ・再撮影率の低減により、患者被ばくの低減および検査効率の向上が期待される。
- ・撮影手順の標準化が進むことで、検査の質の均一化および診断精度の向上に寄与する。
- ・部位別の課題抽出と改善を通じて、技師間の技術格差の是正および組織全体の技術力向上につながる。

目標：ゴールに対する成果の状況

- ・一般撮影の再撮影率は年間を通して概ね1.3～2.0%で推移し、安定した水準を維持している。
- ・再撮影カンファレンスの実施および教育を継続的行った結果、再撮影率のばらつきは軽減し、全体として良好な管理状態が維持されている。
- ・一般撮影の再撮影率は品質管理の観点から概ね3～5%が許容範囲とされる中、当院は2%前後で推移しており、良好な水準にある。
- ・一方、膝関節においては再撮影率が他部位と比較して高値（約2.3～6.7%）で推移しており、改善の余地が認められる。



目標：ゴール達成度

- ☐ S : 大幅な目標を上回った
- ☐ A+ : 目標を多少上回って達成
- ☒ A : 目標を達成
- ☐ B+ : 目標を少し下回った
- ☐ B : 目標を下回った
- ☐ C : 目標を大幅に下回った
- ☐ - : 外的要因より継続困難となった

目標：ゴールの課題・改善策

- ・膝関節の再撮影率は他部位と比較して高値を示しており課題であるが、一般的にも関節撮影はポジショニングの再現性確保や角度設定が難しく、体格差や可動域制限の影響を受けやすいことから、再撮影率が高くなる傾向がある。今後は膝関節を重点改善部位として位置づけ、撮影手順およびポジショニング基準の明確化・標準化を進めるとともに、症例レビューを通じたフィードバック体制の強化を図ることで、再撮影率の低減につなげる。
- ・技師間での撮影技術および判断基準に差が認められることから、教育体制およびマニュアルの標準化が課題である。既存のマニュアルを基盤としつつ、再撮影事例や症例特性を反映した実践的な内容へ見直しを行い、現場での再現性向上を図る。あわせて、定期的な見直しおよび教育を継続することで、技術レベルの均てん化を推進する。